

平成25年度沖縄群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

I 2月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平年並	40	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成26年1月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	17.1	19.8	14.8	119.7	87.1

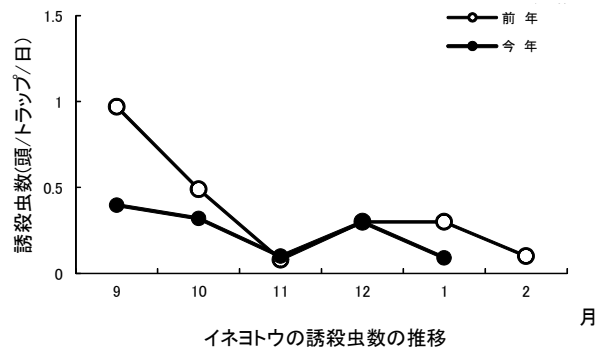
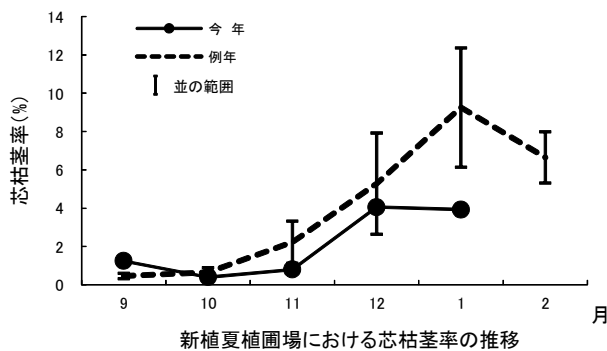
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 2月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ イネヨトウの防除対策

- a 1月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は3.9%(前年8.0%、例年9.3%)と例年よりやや低かった。
- b 1月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭未満(前年0.3頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年8月30日付)号コラム参照。

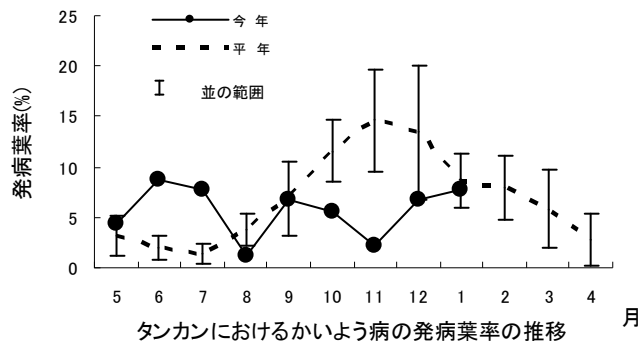
2 タンカン

(1) かいよう病

発生程度 : 並

予報の根拠

1月下旬の調査の結果、発病葉率は7.8%（前年3.3%、平年8.6%）と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- 春芽への感染を防ぐために、薬剤による防除を徹底する。
- ミカンハモグリガの穿孔から病原菌が侵入しやすいので、同虫の防除を徹底する。

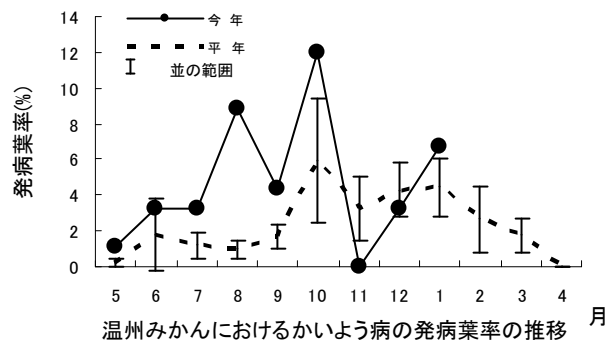
3 温州みかん

(1) かいよう病

発生程度 : やや多

予報の根拠

1月下旬の調査の結果、発病葉率は6.7%（前年0%、平年4.4%）と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

タンカンのかいよう病を参照。

3 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、発病枝率は15.5%であった。
 - b 剪定残渣は、発生源となるためビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
 - c 施設内の換気を適切に行う。
 - d 本病は潜在感染するので、開花前後に予防のため薬剤を散布する。
 - e 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年11月29日付)号コラム参照。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、一部圃場で発生していた。
 - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、予防防除に努める。
 - c 不要な新葉を除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
 - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - e 受粉昆虫に影響の少ない薬剤を選択する。
 - f 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

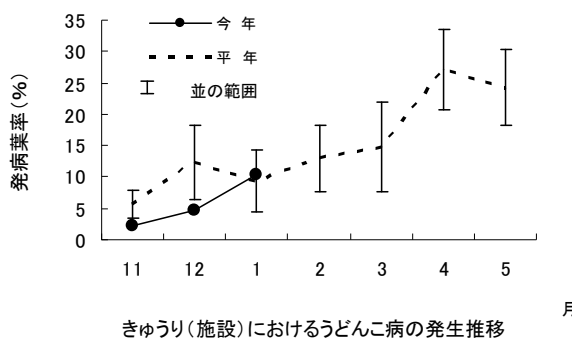
4 きゅうり(施設)

(1) うどんこ病

発生程度 : 並

予報の根拠

1月下旬の調査の結果、発病葉率は10.4%(前年4.3%、平年9.3%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

5 にがうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、発病葉率は2.2%(前年4.3%、平年3.1%)と平年よりやや低く、一部圃場で発生が多くみられた。
 - b 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
 - c 除去した葉は圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。

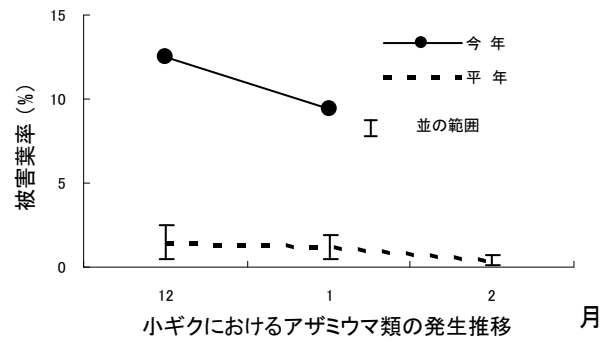
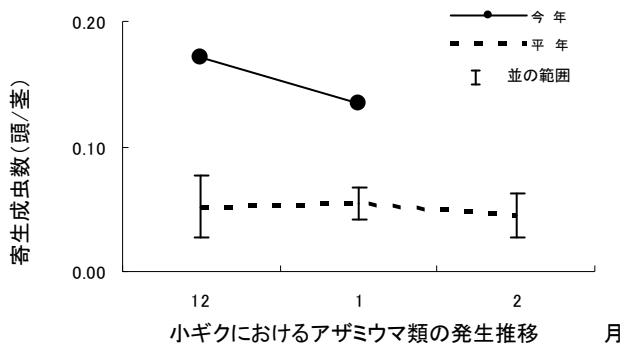
6 小ぎく(彼岸出荷用)

(1) アザミウマ類

発生程度 : 多

予報の根拠

- a 1月の調査の結果、茎当たり成虫数は0.1頭(前年0.0頭、平年0.1頭)と平年より多かった。
- b 被害葉率は9.4%(前年0.7%、平年1.2%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

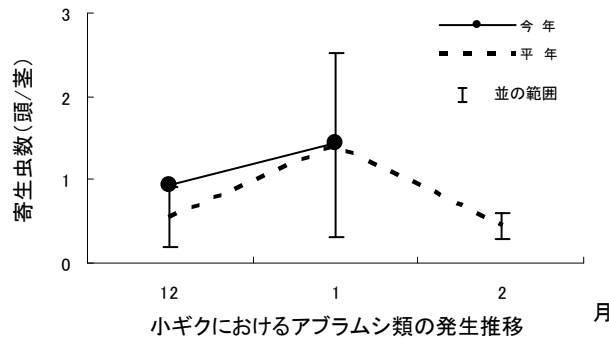
- a 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布を行う。
- b 同一圃場内にあるキクは、異なる品種、異なる成長段階であっても、同時に防除を行う。
- c 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。
- d 圃場内外の雑草や収穫終了圃場の残渣は発生源となるので、早めに除去する。

(2) アブラムシ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- 1月の調査の結果、茎当たり虫数は1.4頭(前年1.7頭、平年1.4頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- b シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- c 早期発見・早期防除に努める。

○ 白さび病の防除対策

- a 1月の病害虫防除員からの報告によると、沖縄本島の一部キク圃場で本病が発生している。
- b 多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- c 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- d 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- e 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- f 栽培終了後は近隣圃場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。